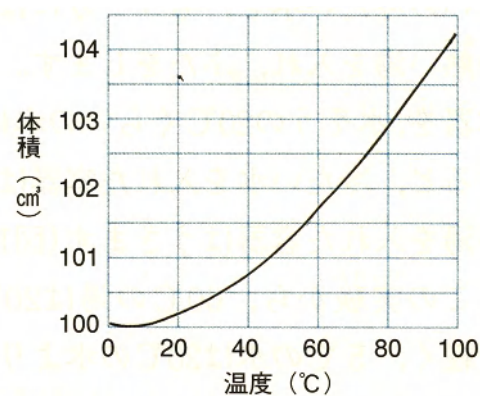
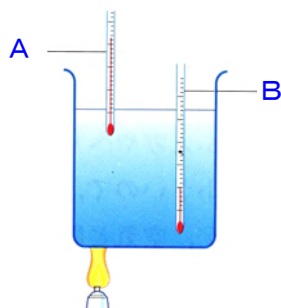
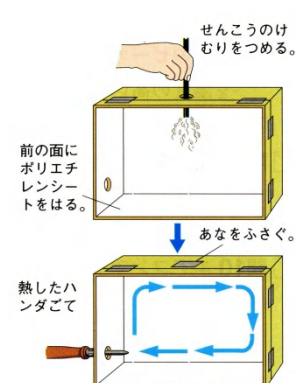
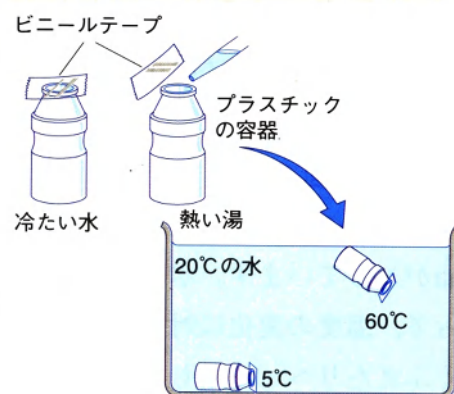


水の体積の増え方や減り方は、空気のように規則正しくはありませんが、グラフのように(1)℃をさかいにして、温度が高くなっても低くなってもその体積は増えていきます。

また、水中につるした2本の温度計は、Aの方がBの方よりも(2...
 高いか低い)温度をしめしています。



右の(3)℃の湯は20℃の水よりも軽く、(4)℃の水は20℃の水よりも重いことが分かります。つまり、同じ体積の水をくらべたとき、



水の温度が高いほど(5...重くか軽く)なるのです。

そのため、水は上下を循環しながら全体があたたまっていき、このような動きによる熱の伝わり方を(6)といいます。

また、空気もあたためると(7)が増えて軽くなって上へ動き、まわりの冷たい空気が入りこむ(6)によって、全体があたたまっていきます。